



～ 令和4年度学校評価について ～

本校の学校教育目標「人間性豊かな氷丘っ子の育成ー自ら学び辛抱強く努力する心豊かな子ー」を達成するために、この一年間、教職員一丸となって教育活動を推進して参りました。その教育活動の達成状況やその達成に向けた取組の適切さについて評価することにより、学校として組織的・継続的に改善を図ることが、毎年実施している学校評価の目的です。

学校評価には、本校教職員による評価「学校自己評価」と、学校運営協議会委員の方々に行っていただく「学校関係者評価」があります。昨年度と同様に、本年度も実践目標の中の「重点事項4項目」に絞って、学校評議員のみなさんに関係者評価を行っていただきました。その結果を保護者の皆様等に公表することで、学校の成果や課題の共通理解を図りながら、次年度の学校運営の改善の向上に努めたいと考えています。

【 学校自己評価・学校関係者評価 】 評価基準 (A:ほぼ達成 B:7割程度達成 C:5割達成 D:達成には遠い)

重点事項	<b>「確かな学力」を育成する学習指導の充実</b> ・基礎・基本の学力の定着 ・協働的探究学習の推進 ・思考力・判断力・表現力を養う学習指導 ・言語活動の充実	
学校自己評価	C	・今年度も学年で授業研究に取り組み、教員の指導力向上に成果が見られた。引き続き、国語科の校内研究を推進し、協働的探究学習を核とした主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。学習規律や基礎基本の学力が低い児童への支援が課題。 ・ICT技術研修を計画的に行い、ICT機器を活用した言語活動の充実を図る。 ・モジュールは継続し時数カウントをする。必ず標準時数を超えるよう定期的に時間数の点検を行う。(本年度は標準時数を超えている)
学校関係者評価	B	・ICT機器を活用し、自分の考えをまとめたり、発表したりする場面などにおいて効果的な使い方をさらに進めてほしい。また、パソコン、スマホの普及により漢字を書ける子どもが少ない。また、昔に比べ本を読むことが少ないのか、理解度が低いと思う。 ・先生方が指導力向上のために工夫されて研修されていることがよくわかる。国語の力は他の全ての教科の学習の為の基本になるものなので、特に力を入れてほしいと思う。 ・国語教育の重要性をしっかりと理解し、6年掛けて取り組んでいく姿勢に共感すると共に、頼もしく感じた。数学も理科も社会も、もちろん英語も国語力が低いと読解できない。文語調で話せない生徒をぜひ、減らしてほしい。C評価というのは謙遜かと思うが、謙虚な評価結果だと感じた。
重点事項	<b>「豊かな心」を育む道徳・人権教育の充実</b> ・あいさつなどの基本的な生活習慣の定着 ・いじめを許さない心の醸成 ・集団や社会のきまりを守る態度の育成 ・命を大切にすることの育成	
学校自己評価	B	・道徳を中心にローテーション授業を行う。道徳は1時間区切りの授業が多いこと、授業力向上の面で適していると考えられる。次年度も継続したい。 ・人権参観の実施により、人権教育の取組を保護者にも周知することができた。ローテーション授業を他教科にも拡大し、複数の教師の目で子どもたちをみる機会を増やす。 ・クラブ活動の日数を可能な限り増やし、縦割り活動の充実を図る。 ・特別支援学級と交流学級の児童間、担任間のコミュニケーションの活性化を図る。
学校関係者評価	B	・道徳教育に引き続き注力いただくとともに、SNSやインターネットの適切な指導についてもより一層の指導をお願いしたい。 ・道徳教育は、一時、学習から外れていた。復活させるべきだと思っていたが、復活した際には、教育現場が混乱したのを覚えている。教えるのも難しい教科とは思いますが、じっくりとしっかりと取り組んでいただきたい。特別支援学級、交流学級の現状を知り、氷丘小学校での取り組みに感謝している。 ・日々の指導において、児童の心の持ち方や行動のあり方については定着してきている。今後もローテーション授業を実施し、「考え議論する道徳」の授業を推進し、家庭と協力しながら道徳的価値観の醸成に取り組んでほしい。 ・あいさつは子どもたちに定着してきていると思う。自然にあいさつの言葉が口から出てくるようになってほしい。人権教育は人間関係に大切なことで、特にいじめ問題は家庭での大事な教育のひとつだと思うが、先生方に頑張っていただきたい。



重点事項	<b>「健やかな体」を育む安全・健康教育の充実</b> ・計画的な体育授業の実践 ・感染症対策 ・学校管理下の事故対策 ・登下校時の安全対策	
学校自己評価	A	・実技を伴う校内職員研修を実施し、体育科の指導力向上を目指した。今後も同様の取組を図りたい。 ・スポーツテストの結果を踏まえ体育の学年年間計画を見直す。 ・エピペン研修を引き続き実施する。また、当該学年のエピペン所持児童を定期的に確認し、緊急時には誰もが滞りなく対応できるようにする。
学校関係者評価	A	・体育科において専門家(なわとび、サッカー、跳び箱)を招聘し、指導していただく取組は理に適っており、非常に良いと感じた。「教師が学び、自信があれば、生徒の学びも大きくなる」との言葉は、現場からしか出ないと思った。教師全員で生徒を見る姿勢にも共感した。 ・児童の健康や危機管理については、教師の指導、保護者や地域の方々の協力により効果を上げている。今後も児童の安全意識を高める指導を継続してほしい。 ・犯罪やトラブルを未然に防ぐべく、登下校時における名札着用の是非について検討してほしい。
重点事項	<b>人間的なふれあいに基づいた生徒指導の推進</b> ・多面的な児童理解 ・いじめ対策の推進 ・人権教育の視点に基づいた生徒指導 ・組織的、計画的な生徒指導	
学校自己評価	B	・全ての教師が学年関係なく気軽に教室に入れるようにする。(教職員全員で氷丘っ子を見守る姿勢を大切にす) ・生活・安全部会や児童支援対策委員会等を活用し、児童の状況把握、情報共有に努める。指導の内容で統一すべきところをしっかりと統一する。 ・いじめ等は、児童との個別の相談機会を増やし、未然防止に努め、組織的に協力して解決するよう心がける。
学校関係者評価	B	・地域と連携しながら、情報を共有して、生徒を見守っていくことの大切さを感じている。地域からの情報収集も大切であるように見受けられた。まさに、PTCの連携が子供を守るようにならなければならないと思う。 ・先生方が共通理解のもとで子どもたちのために努力していただいている。 ・いじめに関しては、家庭内の教育が一番大切だと思う。巧妙で、陰湿になる傾向があるので、大変かと思うが、学校と家庭が連携し、少しの変化も見逃さないようにすることが大切である。これまで同様、児童の心のケアなどを最優先して動いてほしい。 ・今後も人権学習を中心に、全教育活動の中でいじめ等を許さない心育て、未然防止に努めてほしい。



今年度も「学校自己評価」と「学校関係者評価」の2つの「学校評価」で成果と課題が明確になりました。また、学校評議員の方々からは、来年度に向けて学校運営についての提言もいただいております。令和5年度も、本年度の成果と課題、ご提言を踏まえながら本校の教育目標を達成するために、日々の教育活動をさらに充実させていきたいと思っております。子どもたちの成長のために、本年度ご尽力いただきありがとうございました。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

